

# 令和3年度

## 第1回伊万里市立学校規模適正化協議会会議録

1 日 時 令和3年10月25日(月)  
開会 14時00分  
閉会 16時00分

2 場 所 立花コミュニティセンター

3 出 席 25名

4 欠 席 1名

No.	氏 名	出席	No.	氏 名	出席	No.	氏 名	出席
1	上野 景三	○	10	中島 美津子	○	19	清水 正彰	○
2	小田部 徳浩	○	11	小杉 道久	○	20	黒川 敦子	○
3	大島 和子	○	12	杉原 あけみ	○	21	前田 祐子	○
4	山口 美奈子	○	13	山下 秀司	○	22	岩永 孝雄	○
5	西 靖幸	○	14	田中 啓三	○	23	森 俊介	○
6	牧瀬 健	○	15	岡田 政昭	○	24	長谷部 憲一	○
7	田代 陽洋	○	16	吉田 正男	○	25	松本 啓二	○
8	能隅 弘幸	○	17	福地 佳野	○	26	坂田 英樹	○
9	井手 幸江	○	18	口石 さおり	欠			

議事録署名者 5番 西 靖幸

24番 長谷部 憲一

## 5 審議経過

<p>事務局 (学校教育課長)</p>	<p>みなさん、こんにちは。 定刻になりましたので令和3年度第1回伊万里市立学校規模適正化協議会を開催したいと思います。よろしくお願いいたします。 それでは、協議会会長の小杉会長からご挨拶をいただきます。</p>
<p>会長</p>	<p>みなさん、こんにちは。 本日は大変お忙しい中に本協議会にご出席いただきましてありがとうございます。 本協議会は令和元年度に再開し、これまで6回の協議を重ねてまいりました。その間、令和2年1月には、滝野校の統合問題について答申を出し、今年2月には伊万里市立学校の在り方のなかで、児童生徒数の減少と校舎の老朽化問題、複式学級の解消を視点を東陵中学校区、山代中学校区、牧島小学校について協議を行い、一定の方向性を見出したところです。 特に統合等の対象となっている地区については、いろいろな会議の中でも話題として取り上げられたところもあるかと思えます。 その中で出された様々なご意見についても、本日の協議会で意見していただきながら、諮問事項についての継続審議をお願いしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。 それでは早速協議に入りますが、その前に、今回は第1回目ということで初めてご出席いただく委員の方もいらっしゃいますので、まずは自己紹介から始めたいと思います。 (出席者の自己紹介) 次に、議事録と議事録署名者について確認を行います。 前回の令和2年度第3回協議会の議事録については、みなさんのお手元に配布されているかと思えますのでご確認いただければと思います。 議事録署名者については、市小中学校連合PTA代表に西靖幸様と付帯事項等に係る地域代表の長谷部憲一様をお願いしたいと考えておりますがみなさまいかがでしょうか。 それでは、西様、長谷部様、よろしくお願いいたします。</p>

	<p>ここからはお手元のレジユメに沿って進めさせていただきます。</p> <p>(1) の令和2年度までの協議の確認ということで、事務局からこれまでの確認等をお願いいたします。</p>
<p>事務局 (学校教育課長)</p>	<p>まず、諮問書の諮問事項の確認を行います。2ページをご覧ください。</p> <p>本協議会には、前回の付帯事項である「国見中学校、滝野中学校を統合する。」「今後の伊万里市立学校の在り方について」の2点について諮問されております。</p> <p>このうち滝野校の統合問題につきましては、令和2年1月に答申をいただき、令和4年の4月から滝野小学校は東山代小学校と、滝野中学校は国見中学校と統合し、新たにスタートをする準備を進めているところでございます。</p> <p>次に、「今後の伊万里市立学校の在り方について」は、児童生徒数の減少と校舎の老朽化問題、また複式学級の解消を視点に東陵中学校区、山代中学校区、牧島小学校について協議をしていただいたところです。</p> <p>今年2月には東陵中学校区につきましては、「大川小学校と松浦小学校を東陵中学校と統合し義務教育学校とする。」</p> <p>山代中学校区につきましては、「山代西小学校と山代東小学校を統合する。その後、山代中学校と統合し、義務教育学校とする。あわせて、小学校の統合と同時に山代中学校と統合し義務教育学校とすることを検討する。」</p> <p>牧島小学校については、「現段階では複式学級の解消が求められるが、児童数の推移によっては複式学級解消の可能性があることや、校区の見直しを含めて今後継続して検討する。」という一定の方向性を確認したところです。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>会長</p>	<p>ただいま昨年度までの協議内容の確認がございましたが、何かご意見はございませんでしょうか。</p> <p>先ほどの説明で義務教育学校という言葉が出てきましたが、新しく委員となられた方は理解されていますでしょうか。</p> <p>事務局から義務教育学校について簡単に説明していただけないでしょうか</p>

	か。
事務局 (学校教育課長)	<p>義務教育学校というのは、小学校は6年生、中学校は3年生までありますが、それを1つの学校として教育活動を行うものです。つまり1年生から9年生まで在籍しており、伊万里市では南波多郷学館が義務教育学校となっています。</p> <p>南波多郷学館を例にとりますと、9か年を4年生まで、7年生まで、9年生までの3つのステージに分けて特色ある教育活動を展開されています。</p> <p>義務教育学校のメリットとしては、一般的に中学では学級担任制から教科担任制に変わりますので、なかなか中学校のシステムに馴染めずに不登校になる子どもさんがいるという中1ギャップの解消に効果があるといわれています。また、小学校と中学校の教員が同じ校舎にいるので、例えば高学年における外国語や図工、音楽、体育等の授業について教科担任制を導入することができる。中学校の教員の専門性を活かした教育活動が展開できるということがあります。</p> <p>一方、デメリットとして一般的に言われるのは、通常6年生で卒業式を迎えますがそれがございません。そのことによってリーダーシップが失われるのではないかと心配もありますが、それについては先ほど申し上げたステージごとに一番上の学年がリーダーシップを発揮していくというシステムになっているので、郷学館の場合は解消できていると感じているところです。</p>
会長	何かご質問等あればどうぞ。
坂田委員	<p>山代中学校の坂田です。</p> <p>先ほど説明されたシステムというのは、南波多郷学館独自ということですか。</p>
事務局 (学校教育課長)	南波多郷学館独自のシステムです。
会長	<p>佐賀県内においては、玄海町、大町町、多久市に義務教育学校がございます。そしてその地域によって学校名をつけてあります。</p> <p>伊万里市においても、今後は周辺部で義務教育学校となる動きとなってい</p>

	<p>ます。</p> <p>今後いろいろ研修の機会もあると思いますので、そういう流れになっているということをご理解していただけたらと思います。</p> <p>次に進んでよろしいでしょうか。</p> <p>(2) の令和3年度の動向について事務局からお願いします。</p>
<p>事務局 (学校教育課長)</p>	<p>それでは今年4月からの全体的な動きについて報告いたします。</p> <p>まず、今年2月に東陵中学校区、山代中学校区、牧島小学校について一定の方向性を示していただきましたので、私と係長で4月中に対象地区である牧島、大川、松浦、山代のコミュニティセンターを回り、センター長や区長会長方へ本協議会の協議の経緯について報告をさせていただいたところ です。</p> <p>あわせて、協議会は協議会として今後の学校の在り方について一定の方向性を示しますが、地区ではそれぞれの地区において、対象になっている学校の在り方について考える組織を作っただけではないかと要望をしてきたところ です。結果、大川、松浦、山代につきましては、学校の在り方を考える会を設立していただいて、今年度、数回会議をしていただいているところ です。</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、各地区からの報告ということで概略についてお伺いしたいと思います。</p> <p>大川町からお願いします。</p>
<p>山本校長</p>	<p>4月に入り、大川コミュニティセンターのセンター長が来られて、5月10日の第1回の会議に出席しました。名称を「大川小学校の教育を考える会」としております。</p> <p>区長会長さん、民生委員さん、保育園、小中の育友会長さん、市議、県議の方々13名で話をしたところ です。</p> <p>会長は毎年変えてはいけないということで、3年間は区長会長を会長として、今後も継続的に進めていく予定です。</p> <p>最初は「地域から学校がなくなるのはいけないだろうと思ったけれども」という話でしたが、10年後、15年後と先のことを考えると、児童数も</p>

	<p>少なくなるためやむを得ないという話をさせていただきました。</p> <p>なかには、「校舎が古いため、建て直すよりも統合を一という理由ですか」という話も出ましたので、これからの授業のスタイルとして、質の高い学びとか対話的・主体的な学びの在り方ということを考えると、ある程度の児童数がたくさんないと高めることができないのではないかという話をしております。</p> <p>今後は、区長会で学校を見て頂いたり、第2回目の話し合いを進めたりする予定です。</p>
会長	次に松浦町お願いします。
中村校長	<p>松浦小学校が事務局ということで「松浦の教育を考える会」を組織しております。</p> <p>7月に1回、先週2回目を行っております。その前に保護者の方に学校の統合についてアンケートを取ってもらいました。賛成と反対は半々くらいの回答でございました。やはり「学校がなくなるのは…」というご意見をいただきましたし、「児童数の減少を鑑みると東陵中学校と一緒に義務教育学校としての統合もやむを得ない」という意見がありました。</p> <p>先週、考える会の委員さんに集まっていたらご意見をいただきました。そのことについて、森委員さんからお話をさせていただきたいと思います。</p>
森委員	<p>以前から申し上げておりますが、町民全体のこの問題に対しての関心が薄いという状況は変わっていないのかなと思います。</p> <p>このままではいけないということで、思いのある方で、小学校で独自の説明会を設けていただいたり、中学校に呼びかけたり、今までの経緯とどういふ風に考えているのかを話した上で先ほど校長先生が言われたアンケートが実施されました。</p> <p>半々ということでしたが、実際数は反対の方が多かったです。</p> <p>ただ、100%の回収率ではないです。</p> <p>しかし、大まかな流れとしては、現状では統合もやむなしという流れを作っていくしかないのかなと思っています。</p> <p>学校を残したいという方は、松浦小学校の良さを具体的に持ってらっしゃ</p>

	<p>る方で、それがあから松浦小学校に子どもを通わせているという方が半分はいらっしゃるということです。</p> <p>新しい学校を作っていくのであれば、松浦小学校の良さをどう残して活かしていくかというのを考えていかなければいけないと思っています。</p> <p>特に義務教育学校という形をとっても、「規模適正化」という視点で見れば問題は全く解消されないということを意識しておかないと、周辺部と中心部の学校の差はそのままになってしまいます。</p> <p>あとは保育園の民営化が具体的に進んでいます。このままでは子どもの施設が町内からなくなることになります。</p> <p>ただでさえ子どもがいない世帯が圧倒的に多いので、子どもへの関心はますますなくなっていくと思います。</p> <p>教育を考える会の委員でも、まだ1度も参加されていない方もいらっしゃいます。2回目を迎えて、参加された方の意識は高まっていますが、関心がないままの方もいらっしゃるというのが現状です。</p>
<p>会長</p>	<p>最後に山代町お願いします。</p>
<p>西委員</p>	<p>「山代の教育の在り方を考える会」ということで、第1回目を6月28日に山代コミュニティセンターで行いました。</p> <p>今回の会長は区長会長をとという中で、区長会の会長・副会長、また自治公民館の会長・副会長、スポーツ協会長という、町内の各種団体の会長様にお集まりいただいて、山代中学校区の3校の校長先生、教頭先生、また、山代町内の4園の園長と保護者代表、市議会議員にもご参加いただきました。</p> <p>まずは規模適正化協議会の進捗をご報告させていただき、小中学校の保護者に対するアンケート調査の実施ということで、7月に行うということでたたき台を用意していただき、保護者へ配布しているところです。</p> <p>その回収結果をもとに、第2回目を8月4日に行いました。</p> <p>山代東小学校は156人、山代西小学校は40人、山代中学校は86人の計282人の長子の世帯へ配布し、166世帯59%から回収できています。</p>

あわせて、保育園の保護者に向けてもアプローチをしております。

山代町在住で小中学校に兄弟がいない世帯を対象として、未就学児の保護者へのアンケートを行いましては、25世帯から回収しております。

結果ですが、「山代西小と山代東小を統合し、後に中学校を統合」という二段階の統合が67で40%、「3校同時統合」が42の回答で25%となっております。「小学校のみを統合し、中学校については部活が少ない、また生徒数が少ないことを鑑み、国見中学校と統合」が34で20%、「単独校を維持」が14の8%、その他、空欄が4%という結果が出ました。

8月4日の第2回の折にはこの結果を受けて議論しましたが、「学校並びに保護者の実態というのが出たみたいだけれども、地域の意見も取りまとめた」ということで8月下旬から9月中に区長会及び自治公民館長会を通じて、地域の意見を各地区に落とし込んでいます。

それを受けて10月14日に第3回を行いました。いろいろな意見が出ましたけれども、ある程度の町民の総意とは言いませんが意見がまとまったのかなと思っておりますが、山代西小学校と山代東小学校の統合は仕方ないのではないかとということと、中学校においてはまだ議論の余地があるということとで時期尚早ではないか、当分そのままという意見でございました。

先ほど小杉会長から「義務教育学校、もしくは小中一貫校についての具体的な内容を把握されていますか」という会長からの振りがありましたけれども、そこをもう少し時間をかけて、ぜひ市教委から山代町に出向いていただいて、義務教育学校とは、小中一貫校とはというところについて、保護者をはじめとした地域向けに説明をしていただき、私たちが知見を広めて判断材料としたいと思っております。

以上です。



<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま3つの町それぞれの考える会の報告がありましたけれども、何かご質問等がございましたらお願いいたします。</p> <p>それぞれの3町におきましては、地域住民にアンケート調査をしていただいたりして大変ご尽力していただいたことに感謝申し上げます。</p> <p>児童生徒数の減少と校舎の老朽化問題を抱えておりますけれども、共通して言えることは、地域から学校がなくなるというのは地域の活気が失われるといった不安があるのではないかと考えております。</p> <p>一方で質の高い学びを確保するためには、ある程度の児童生徒数が必要ではないかというご意見もありました。</p> <p>今後は教育委員会が地域に出向いて、さらに地域の理解を深めてもらいたいと思います。</p> <p>それでは（４）の伊万里市教育委員会の方向性ということで事務局からお願いします。</p>
<p>事務局 (学校教育課長)</p>	<p>令和元年度より本協議会で諮問した事項について協議をしていただいております。その協議内容を加味しながら、伊万里市教育委員会の学校規模適正化に係る方向性を検討させていただきました。</p> <p>大きく2つの視点で検討させていただいたことをご報告させていただきます。</p> <p>本協議会は、次回2月上旬を予定しておりますが、2月で一度終了することになります。その後、市内の学校の様子を見ながら、必要となった場合に再開することを前提にご報告をさせていただきます。</p> <p>1点目は現実的な学校規模についてです。</p> <p>伊万里市では平成24年度に現実的な学校規模を次のように定めております。</p> <p>小学校では、複式学級にすぐにはならない規模で1学年1学級以上、1学級20人程度、全校で120人程度が現実的な学校規模であると考えています。</p> <p>中学校では、全ての学年でクラス替えが可能な複数の学級が最低限維持され、かつ多様な学習形態や部活動等の選択の幅が広がりやすい規模とし、</p>

	<p>1 学年 2 学級以上、1 学級 20 人程度、全校で下限として 120 人程度が現実的な規模と考えるということを定めております。</p> <p>現在、統合する滝野校を除くと、小学校で 8 校、中学校で 4 校がこの基準を満たしていない状況にあります。しかしながら、基準がない中での学校規模を見直すことは難しくなりますので、現実的かつ最低維持したい規模としてこの基準は残していきたいと考えています。</p> <p>2 点目は中学校区で地域と連携し子どもを育てるコミュニティスクールを展開していくということです。先ほどの児童生徒数だけを見て学校の統廃合を議論し始めると、中学校は極端に言うとも市内に 3 校から 4 校でよいといった極論に至ります。伊万里市がこれまで大切にしてきた地域と共にある学校、地域と連携して子どもを育てる教育風土が失われていく可能性があります。そのことを避けたいと思っておりますので、今年度から中学校区単位でコミュニティ・スクールを導入したところでございます。</p> <p>この 2 点から、今後現実的な学校規模については、現実的かつ最低限維持したい基準として残しながら、その地域で培われた教育風土を残すために、まずは中学校区での統廃合を検討していくことと考えています。</p> <p>それから、昨年度までに幾度となくご意見をいただきましたが、市中心部においては、新興住宅地の開発により児童生徒数が増加します。そして特別支援学級が増加し、教室不足が深刻な問題となっているというご意見をいただきました。</p> <p>これを受けまして伊万里市としましては、児童生徒数の動向をみながら、必要に応じて校舎の増築、校区の再編等を今後検討していく必要があると考えているところです。</p> <p>以上です。</p>
会長	何かご質問がありましたらお願いいたします。
森委員	現実的なところ、当面その方向というのは仕方ないとは思いますが、特に中学校の子どもたちに、自分の校区のことでいうと、とにかく少人数の学年で過ごしていかななくてはいけないというのが固定化されるわけですよ。なので、そこを将来的にどう保障してやるのか。

	<p>今、部活などは他の学校と一緒にというのが現実的になっていますから、そういう具体的な形を作ってやる必要は絶対あると思います。そうでないと、本当に大人の都合を子どもに押し付けることになりますので。具体的に今自分は思いつかないですけど、中学校の子どもへの本当の意味での規模適正化というのを考えるのがこの場ではないのかなと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>他にありませんでしょうか。</p>
西委員	<p>今お越しいただいておりますが、総合政策部の方との連携と申しますか、いわゆるコンパクトシティを目指すというお話を最初の協議会の折にお話しされたと記憶しております。その中で定住促進、空き家対策といったところで、子育て世代を招き入れるような魅力あふれる伊万里市というところで大なり小なりしていただいていると思いますが、やはり教育委員会だけの議論では限りがあるように思います。枝葉であると思います。木を見て森を見ないではわからないと思います。</p> <p>企画政策課の意見をぜひ聞かせていただきたいし、この会はもっと包括的な議論の場とした方がよいと思いますがいかがでしょうか。</p>
企画政策課	<p>おっしゃったように、これは子どもたちだけの話ではないと思っています。伊万里市としての魅力がどうかというところに関連する話ですので、そういったところも含めて議論をしていくべきだと思います。</p> <p>ただ、この場は学校規模についての適正化を検討していただく場ですし、私どもとしては、肥大になっている施設をどうやって減らしていくかという観点から提案させていただいた内容について、教育的な観点から今回議論していただいているという形になっています。</p> <p>全体的な市の人口対策というのはもちろん必要ですし、それについて地方創生の別の協議会で議論させていただいているところではございますが、そういったものをぜひ各地区で、市長が巡回して座談会をやるとしてはコロナの影響で中止というのを再三繰り返しております、市長としても各地区のみなさんと膝を突き合わせていろんな話をしていきたいと申しております。</p>

	<p>ぜひいろいろな意見を多くの場に出していただきながら、市役所だけ、個人だけということではなく、全体的な盛り上がりのなかで市民一人ひとりの力を結集させていただいて、伊万里市の魅力づくりをして、各地区の人口増に繋がればと思っております。</p> <p>残念ながら、最近割と転入者はいらっしゃいますが、ほぼ中心部への転入となっていて、特に周辺部から中心部への流れが見受けられますので、それぞれの地区で頑張ってくださいことで、全体的な魅力をアップしていけたらと考えております。</p> <p>もちろん市役所のほうで音頭を取りながらではありますが、ぜひいろいろご協力をいただきたいと思っております。</p> <p>この場ではその議論というのはそぐわないと思いますので、別の場で議論させていただきたいと思っております。</p>
会長	ありがとうございました。
岡田委員	<p>伊万里地区の区長会長をしております岡田と申します。</p> <p>今回初めて参加して、各地区いろいろな活動をされているなど感じて聞いておりました。</p> <p>今日は伊万里高校の校長先生もおられますけれども、6～7年前に伊万里高校と伊万里商業、伊万里農林の統廃合の話がございました。</p> <p>今、小学校から武雄や唐津の中学校に40～50人の生徒が流出しているということで、当時の話だと、3クラスだと学校の活性化、部活が成立しないということで話があっておりました。</p> <p>今日の規模適正化とは若干話が違うかもしれませんが、市全体の魅力、伊万里で子育てをするという観点で、小学校、中学校というのは地元の拠点となっていますので、市の魅力という観点からの考え方も必要なのではないかと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>他に何かありませんでしょうか。</p>
坂田委員	<p>山代中学校の坂田です。</p> <p>先ほど包括的などというお話が出ていましたので質問ですが、山代校区でい</p>

	<p>うと、5年以内に西と東の小学校が統合されるということですが、比較的校舎が新しい。まだ綺麗な校舎です。その校舎を今後どう活用するのかという話を同時に進めたほうが良いと思っております。</p> <p>小学校がなくなると本当にさみしい地域になってしまうと思います。</p> <p>ただ、校舎をどうにか活用して地域をどうにか活性化できないか、地域の方にもいろいろなアイデアがあるかもしれないので、同時に話を進めていくべきだと私は思います。</p> <p>それと、私も初めて参加させていただいていますが、この協議会はそもそも何のためにあるのかという点を確認させていただきたいです。</p> <p>我々は各地区から集まってきていて、やっぱり地域に学校を残したいという気持ちが強いですし、当然子どもが少ないから統合したほうが良いという意見もあるかと思いますが、ここの場で「統合反対」という意見が出た場合、統合はなくなるのか。そのあたりの協議会の在り方を教えていただければと思います。</p>
<p>企画政策課</p>	<p>校舎の跡地につきましては、基本的には学校に限らず、公共施設の統廃合を進めるなかで、統廃合して廃止をした施設については、基本的には解体して更地にし、売却するなどして処分をすることにしておりますけれども、先ほど言われたように学校については地域の中核的施設であることから、まずは地域の方でこういった活用ができるのか。また、「こういった活用がしたい」ということであれば、基本的にはそれを優先したいと考えております。</p> <p>地域の方でも活用方法がないということであれば、市の遊休資産になってしまうので、そうなれば処分をさせていただくという方向です。</p> <p>全体とは言わないまでも、例えば体育館だけを活用したいとか、山代西小学校であれば避難所がなくなるという現実的な問題にもつながるので、地域の方と今後の活用について協議をしていく必要があると思っております。</p> <p>(協議会の在り方については学校教育課から説明します。)</p>

<p>事務局 (学校教育課長)</p>	<p>本協議会の目的ということですが、要綱に定めてある文章を読み上げさせていただきます。</p> <p>本市の小中学校、義務教育学校を分離または統合し、学校規模を適正にするとともに、少子化に伴う小規模校の増加や義務教育学校等の新しい学校づくり、今日的な課題に対応した規模適正化を図り、良好な教育環境の提供や教育の向上を図ることを目的としております。</p> <p>この協議会で次回の2月の中旬に答申をいただくように予定をしております。その答申を受けて、教育委員会では内容について協議を行わせていただき、今後の学校の統廃合について進めさせていただくということになります。</p>
<p>会長</p>	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>他にございませんでしょうか。</p>
<p>長谷部委員</p>	<p>国見中学校区の長谷部です。</p> <p>1点だけご質問です。</p> <p>現状を踏まえての動きですが、仮に人口が増えてしまった場合、どのくらい増えたら新しい校区が設けられるのかというのが知りたいです。</p> <p>報道でありましたように、大きな事業所ができて、山代中校区、国見中校区で人口が増えた場合に、彼らが通える学校というのを検討していかないといけないと思いますが、何人くらいであれば新たな校区ができるのか。</p> <p>未来への種まきも同時にしないといけない、知りたいと思ひまして質問させていただきます。</p>
<p>会長</p>	<p>立花小学校区にも住宅地ができると聞いております。</p> <p>校舎の増築等の問題もできますがその辺いかがでしょうか。</p>
<p>事務局 (学校教育課長)</p>	<p>国の定めによりますと、学校の規模としましては12学級から18学級と定められております。最大の18学級となりますと、児童生徒数がおおよそ700人を超えるという規模になり、そうなったときには分離などを検討していかないといけないと思います。</p>
<p>長谷部委員</p>	<p>回答ありがとうございます。</p> <p>知りたいのは最小いくら以上、12学級だと何人以上ですか。</p>

事務局 (学校教育課長)	12学級であれば400人を超える規模となります。
長谷部委員	小学校区で400人ですか。
事務局 (学校教育課長)	そうです。
長谷部委員	わかりました。ありがとうございます。
会長	<p>他にありませんでしょうか。</p> <p>先ほど課長から説明のなかに、今年度から中学校区単位でのコミュニティスクールの導入を始めたというお話がありました。地域との連携は今に始まったことではなく、昔から地域と連携をなささいという指導が各学校にはあっておりましたが、なぜ「中学校区」という言葉がついているのかがよく理解できておりませんが、例えば伊万里中学校でありますと、大川内小学校、立花小学校、大坪小学校の全児童が一堂に会するというのも無理だと思います。そうなってくると代表者が集まってということになるかと思いますが、今までの地域連携と中学校区単位のコミュニティ・スクールというのはどう違うのかお尋ねしたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>中学校区でのコミュニティ・スクールとしている理由としましては、小学校単位ではこれまでも間違いなく行われておりました。小学校でそれを終わらせるのではなく、中学校でも継続させ、広い範囲で子どもたちを見守りたいというのがねらいにございます。</p> <p>よく私どもが耳にしていたのは、中学生の地域行事への参加が少ないということです。</p> <p>中学校区単位で子どもたちを地域で育てていくことができるのではないかとということです。</p> <p>それから、中学生と小学生が交わることで、中学生の心の成長も促すことができるということも考えているところです。</p> <p>これまでの取組みではどうしても小学校でプツンと切れてしまうというイ</p>

	<p>メージがあるのではないかと思います。</p> <p>中学校区単位で物事を考えていくことで、間違いなく市内の校長先生方の意識も中学校区単位で子どもたちをどう育てていくかという点に目が向いてきたと思います。地域行事への参加を中学校区単位で促したり、台風等のときに学校の対応をどうしようかというときも中学校区単位で休校の判断をしたりする話なども、これまではない動きとしてでてきています。</p> <p>以上です。</p>
会長	<p>コミュニティ・スクールについては、教育委員会で予算化などはされてあるのでしょうか。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>現時点では活動費として予算化をしているということはありません。</p> <p>昨年度が準備期間で、今年度本格的に導入したということで、今年度の各学校の動きを見ながら必要な予算があれば検討していかないとはいけません。</p>
会長	<p>他にありませんでしょうか。</p>
西委員	<p>私自身山代中学校の学校運営協議会の委員でしたが、昨年度末に評議員の解散がありました。4月からコミュニティ・スクールということで昨年度末にこの制度と方針の説明を受けました。</p> <p>1つは令和3年度に会議を何回して、どういう活動を行ってということがあれば当然予算化をという話だったと思いますが、立ち上げるにあたっては手探り感が否めなかったことで、予算化ができなかったのかなという現状があります。</p> <p>8月に行われた市連合PTAにおける学校実務者との懇談会の中でグループワークを行ったときに、ある学校の教頭先生から「第1回目のコミュニティ・スクールの会議を行ったが予算化がなかったので通信費や当日のお茶代は自腹を切ったところですよ」とのお話を聞いて驚いたところですよ。</p> <p>ですので、ぜひ予算化に向けてご配慮いただきたいということと、私自身、コミュニティ・スクールに光を見ています。</p> <p>というのは、先ほど申し上げたアンケート結果でも、生徒の保護者から部活動の選択肢が2つしかないというから、国見中学校との統合とおっしゃ</p>



	<p>られる方が結構いたということもあります。</p> <p>しかし、先ほどおっしゃったように中学校区だからできることというところでコミュニティ・スクールの活用、私が思っているのは育成部会、地域の人材の育成と学習部会、話し方大会、学校図書や図書館を利用した学習発表などの支援。</p> <p>これまでは学校だけで行っていたところを、働き方改革というなかで、地域と学校が連携しながらできればいいなと思っています。</p> <p>市教委や学校としても同じ光を見ていらっしゃると思いますので、この議論をより広く深くしていきたいと思っていますところです。</p> <p>以上です。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>コミュニティ・スクールについては、学校に地域の方の力を貸していただきたい。地域の方にどんどん入ってきていただいて、子どもたちの実情を見ていただきたいと考えます。そして学校は、地域に貢献しなければいけないと私は考えております。</p> <p>つまり、まちづくりの主体者として子どもを育てていくということを目的として考えているところです。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p>
森委員	<p>すいません。</p>
会長	<p>どうぞ。</p>
森委員	<p>東陵校区はで一番難しいところは、大川町と松浦町という別の町が同じコミュニティ・スクールをやっていくというところです。</p> <p>現状のコミュニティ・スクールというのは閉ざされた学校の中の問題を議論する場となっていて、学校側が用意された資料に沿って進めていくようになっています。</p> <p>今統合で一番懸念しているのは各町の自治の力が非常に落ちているというところです。</p> <p>統合することでそれがますます落ちるのではないかと危惧しています。</p> <p>大川と松浦という町をまたいだ新しい自治を考えていく場所としてコミュニティ・スクールを位置づけていく必要があると思っています。</p>

	<p>これは校区の校長先生には荷が重いと思うので、行政の方からのバックアップをお願いしたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それではここで2月の最終答申に向けての内容の提案、確認をさせていただきたいと思います。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>令和元年度より協議を行っていただきました東陵中学校区、山代中学校区、牧島小学校について、答申の案として提案させていただきたいと思います。</p> <p>「東陵中学校区については大川小学校と松浦小学校を東陵中学校と統合し、義務教育学校とする。」</p> <p>「山代中学校区については、山代西小学校と山代東小学校を統合する。その後、山代中学校と統合し、義務教育学校とする。あわせて小学校の統合と同時に山代中学校と統合し、義務教育学校とすることを検討する。」</p> <p>「牧島小学校については、現段階では複式学級解消のための統合が求められるが、児童数の推移によっては複式学級解消の可能性があることや、校区の見直しを含めて、今後継続して検討する。」</p> <p>以上でございます。</p>
会長	<p>いかがでしょうか。</p> <p>今、「その後、山代中学校と統合し、義務教育学校とする」とありましたけれども、青嶺中学校の場合は波多津小学校と黒川小学校には触れずに、中学校だけを小学校と統合するというのでよろしいでしょうか。青嶺中学校はどうなるでしょうか。先のことはわかりませんが、山代東と山代西が統合するというのはいいと思いますが、その後山代中学校と統合というのはいいのでしょうか。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>今回の協議会においては、複式学級解消という柱のもと協議を行っていただいております。</p> <p>山代西小学校は現在複式学級を有していますので、この答申案を提案させていただいております。</p> <p>青嶺中学校区につきましては、児童数の推移を見ながら検討をする時期が</p>

	きたときに、適正化協議会を再開し、検討することになると思います。
会長	最終答申に向けた提案がありましたが、何か質問はありませんか。
吉田委員	<p>区長会の吉田と申します。</p> <p>今口頭で提案をされて、これが原案になるということですが、ペーパーでいただくわけにはいきませんか。</p> <p>これを地元で正確に伝えるためには口頭で言われても説明できません。</p> <p>これで次回の2月に決めますよということでは、正確な言葉で伝えないと、地元で伝わらないと思いますがいかがでしょうか。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>ご指摘いただきありがとうございます。</p> <p>答申案ということで後日委員のみなさまには郵送させていただきたいと思っています。</p>
会長	<p>それでは、西九州大学の上野先生に地域と共にある学校について留意点やアドバイス等についてご助言いただけたらと思います。</p> <p>それではよろしくお願いいたします。</p>
上野委員	<p>西九州大学の上野でございます。</p> <p>1つはコミュニティ・スクールの背景の話でございます。どうしてコミュニティ・スクールが出てきたのかということですが、少子化が進んでいく、人口が減少していく、そして国は公共施設を少なくしていきなさいということを自治体に命じているわけです。</p> <p>企画政策課の松本さんからありましたように、学校も含めた公共施設の延べ床面積を少なくしていきましようということを言われています。</p> <p>学校を減らすとなると、統廃合ありきの議論にしかありません。</p> <p>この議論はよくないと思っていまして、学校の話をするならば子どもたちを中心に据えた議論をすべきだと思っています。</p> <p>それから家庭の教育力の低下、地域の教育力の低下ということが言われています。これはなかなか測りようがないですが、言えることは、それぞれのご家庭が多様化したということです。</p> <p>伊万里市でも、まだ三世代のご家庭はあると思いますが、一方でシングルペアレントも増えているだろうと思います。将来的には、全世帯に占める</p>

シングルペアレントのご家庭が大体4分の1を占めるだろうと予測をされています。

1人で子どもを育てるとなるといろいろな困難があり、子どもさんと向き合う時間というのがなかなか少なくなる。そして子どもたちは親に苦勞をかけまいと、例えば大学進学を最初からあきらめるというのが引き金になって学力が伸び悩むということも起きかねない状況にあります。

地域について言えることは、地域社会のなかで、子どもに対する関心が低下しているということです。

みなさんのお住まいの地域で、小学生のお子さんがある世帯がどれほどの割合でしょうか。

伊万里市の人口は約5万4千人と聞いております。世帯数は2万3千ほどだったかと思います。

では、人口を世帯で割ったときに1世帯当たりの人口は2.2～2.3人ということになります。

このなかで子どもさんがおられる世帯というのは、佐賀市を例にとってみると、5%となります。ということは、95%には子どもに関する情報は入ってこないということになります。

この95%の方々も子どもや学校のことが大事ということはわかっているけれども、目の前の自分たちの福祉というところにまず関心が向くのは当たり前だろうと思います。

子どもや学校に関心がないのではなく、自分の暮らしが優先となり、相対的に地域の子どもの関心というのが少なくなるというのはやむを得ないことだと思います。

どんなに小規模な学校でも、教員はそれなりの業務量があり、特に中学校の先生なんかは多忙だということをよく耳にするかと思います。

以前武雄市の小学校で調べたことがあります。1日のうちに教員同士で話し合ったり、世間話や子どものことについて話したりする時間がどれくらいあるか聞いたときに、20～30分しかない。しかもその時間で丸付けをしている。でも終わらないので持ち帰って仕事をするということ

でした。

こういう状況にあって、校長先生方は大変な中で学校を経営しておられるときに、なぜコミュニティ・スクールが登場しなければならないのかというと、地域と協力しながら子どもたちを育てていきたいと思いますということなのです。

今国は3つの柱で動いています。

1つ目は教員の資質向上です。先生方はいろんな研修を受けています。教員免許更新講習というのが話題になりましたが、講習に出る暇がないのでやめようという話になりました。

2つ目はチーム学校です。校長のマネジメントのもと、どう学校運営をスムーズに行うか。今学校にはスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの先生がいらっしゃいます。教員以外のいろんな方がいる中で学校は一丸となって取り組んでいく能力が校長先生には求められているということです。

3つ目がコミュニティ・スクールと地域学校共同本部です。

コミュニティ・スクールは学校運営の仕方の話です。地域学校共同本部は学校を支えるための地域の団体のようなものだとご理解いただければよいかと思います。

先ほど、いろんな地域において「考える会」というのが設立されているというお話を聞いて、大変うれしく思いました。

学校評議員というのは学校に意見を言うというものでした。学校運営協議会というのは学校運営と一緒に考えるというものでした。それは、地域の方が学校運営に参加すると同時に、学校も地域に出ていきたいと思いますという関係を作っていこう。では、これを一体誰が考えていくのかというときに学校運営協議会、そして運営協議会のみなさんは「考える会」に属しておられて、その呼び方として地域学校共同本部といい方をしたりしますが、このような組織が学校を支えていく団体になっていくと思います。

次に、佐賀県におけるコミュニティ・スクールの数になります。

全国では、小中あわせて3万校くらいございます。高校や幼稚園を含める

ともっとあるかと思いますが、全国で9788、約3分の1がコミュニティ・スクールの導入をしているということです。

残念ながら佐賀県は立ち遅れています。福岡や熊本、大分はものすごく熱心に取り組んでおられます。

佐賀県は、県教育委員会があまり熱心に取り組んでこられなかったですが、近年は力を入れようとされている段階です。

その中で見ますと、幼稚園が237、小学校が5884ですから、半分以上が小学校ということがわかります。中学校が2721、義務教育学校が76、高校も668校あります。中等教育学校が3、特別支援学校が200校近くございます。

令和元年度の調査ですけれども、佐賀県では11市町が取り組んでいます。まだ9市町は取り組んでいないことになりますね。

小学校が44校、中学校18校、義務教育学校4校です。

義務教育学校の紹介でありました多久市、玄海町、大町町はコミュニティ・スクールにしていることになります。

伊万里市は令和2年度から南波多郷学館を指定されたということです。

それぞれの学校にはそれぞれの課題がございます。地域との関係といたしますが、コミュニティ・スクールをしなくてもすでに地域との関係は良好というところもあります。こういう地域はいいところだなと思います。

20年くらい前に伊万里のある中学校にお邪魔したときに、当時のPTA会長さんに「どうやって会長さんになったんですか」とお尋ねしたときに、「先輩から言われて」と言われたんですね。そこで「10年後の後任の方はどうやって決めるんですか」と聞くと、「そのあとは苦勞するだろうね」と言われました。次はなかなか見つからないとおっしゃいました。

また20年前くらいの話ですが、伊万里小学校のPTAで講演をさせていただいたことがあります。その時初めて聞いたんですが、運動会で組み分けをするときに、地区ごとに分団を分けるということだったんですね。「分団ごとに人数が違うじゃないですか」と言っても、そういうことは問題にならないとおっしゃいました。「地区のみんなですることによって運動会は盛り上

がる」と言われたのが20年前の話でした。

ですから、みなさんが育ってこられた過程のなかでは、学校と地域は自然と共にあった。自分の家に子どもがいようがいまいが学校を支えていくということは、伊万里に住むものとして責任を持たなければいけないという意識を自然と持っておられた。

ところが今はどうでしょうか。

コンパクトシティというお話が出ましたが、伊万里市広いですね。

よく人口減少で言われるのは、毛細血管からなくなるかのように周辺部からなくなっていく。これは、市域内での世帯分離が進んでいることになります。伊万里市だけではなく、全国の地方中小都市を見ても同じ傾向にあります。

周辺部から子どもがいなくなるだけではなく、若い世帯、子どもを持つ世帯が中心部に集まっている。そして中心部で宅地開発が進み、中心部の学校が大規模化して、学校の分離とかいう話も出てきてしまいます。

ですから、この協議会というのは、周辺部の学校をどうしていくのかということだけではなく、中心部の学校をどうしていくのか、これを数合わせの議論ではなくて、子どもたちにとってよりよい学校をどうやって作っていくかというテーマとして据えなければならない。それを全市的に考えられるのがこの場でしょうし、それぞれの地域に分かれた場合には「考える会」のみなさんで知恵を寄せていただくしかないと思います。

今回中学校区でのコミュニティ・スクールということですが、学校区との不整合というのがあります。どういう意味かということ、多久市が全ての学校を3つの義務教育学校としました。

その中で難しいと思ったのが、公民館の職員さんたちがコミュニティ・スクールなどの業務を引き受けていただいているところがありますが、公民館はコミュニティ・スクールに対して温度が低いんですね。

「仕事していないんじゃないの」と言ってみました。すると、「違うんです。公民館は小学校区ベースでできているので、小学校区を超えて中学校区の議論はしにくいんですよ。いろんな団体が小学校区単位でできているので、

隣の小学校区と学校は一緒になったかもしれないが、地域はそうになっていないのでどうしたらいいでしょうか。」と言われました。

確かにそうだなと思います。ですから、中学校区でコミュニティ・スクールに着手するときには、小学校区単位でできている団体や行事なども併せて考えていかなければならないかなと思います。

そして、教職員の理解が重要としていますが、やはりコミュニティ・スクールをやっていない学校の職員は理解が浅いです。面倒だからと思っておられる方は少なくないです。

しかし、コミュニティ・スクールの導入当初は負荷がかかるのは当然なんですね。新しいことにチャレンジするのでやむを得ないです。

ところが、今の学校教育がどうなっているか考えたとき、地域との連携を強めていかなければならないのは、総合的な学習の時間、道徳になりますが、学校の先生でこれらに熱心に取り組んでおられる先生がどれぐらいいるだろうか。

教員は教科中心に自分の仕事を考えていますので、小学校の先生でも自分は社会が専門だ、算数の専門だとなっていますが、これは教員の養成の仕組みがそうになっているからなんですね。

道徳専門の先生はほとんどいらっしゃらないと思います。総合的な学習の専門はもっといない。

そうすると、よりよい総合的な学習の時間を作ろうという機運が起きにくいということになります。

それでもやらなければならないのでどうするかというと、これまで地域と関係のあった方、例えば近所で田んぼをされている方や、伊万里でいうとカブトガニに精通している方ですね。そういった方をお願いするわけですね。そして、お願いをして終わりとなります。そうすると、お願いをされた側は「学校が言うなら協力はするけど…」と思っておられる方も少なからずおられるわけですね。

総合的な学習というのは子どもたちに調べる力をベースにしながら主体的に学ぶことをどう養っていくかを目的として創設されたはずなのに、その



目的がなかなか達成することができない。

今申し上げたように、地域で専門的な分野の知識をもっておられる方がいらっしゃって、考える会や運営協議会の中で知恵を出し合うことが必要になってくるような時代になってきた気がします。

これが将来的に教員の負担軽減につながるだろうと思います。

伊万里市におけるコミュニティ・スクールの課題が今まで申し上げたようなことです。学校規模の適正化を数合わせの議論に終わらせない。そして、子どもを中心に置きながらどういった学校を作っていきたいのかをぜひお考えいただきたい。考える会をおつくりになったということですので、そこでいろんな意見を出し合いながら、いい学校を作っていいただければと思います。

また、地域の関心は低いかと思いますが、先行する世代、大人として、子どもたちが育ちやすい社会、安全安心な地域社会を残すことは1人の大人としての責任だと思います。学校と地域の相互理解を図っていくことをいろんなレベルでやるといいと思います。

最後に、横と縦の広がり、繋がりについてです。

横のつながりは学校と地域だけを結ぶイメージです。

今日意見の中で幼稚園や高校の話が出てきました。部活の話も出てきました。これは、それぞれに抱える問題が違います。幼稚園や保育園は保護者さんの勤務先に近いところに預けることができます。小中学校の場合は適正な規模の問題があります。中学校は部活の問題もあります。

中学校を選択するときに、野球をしたいからという理由があります。そういう子どもがどれくらいいるんだろうと思います。

佐賀市の山間部の義務教育学校で、中学部に進学する際、部活を理由で数名欠けていくという話があります。

伊万里市では高校が3校あるかと思いますが、佐賀県10市のうち、市内にそれだけ高校があるところは佐賀市、唐津市、鳥栖市くらいです。

伊万里市というのは佐賀のなかでも地方の拠点であることは間違いないことだと思います。

	<p>毎年、多くの生徒が福岡県の高校に進学しているという話があります。</p> <p>そこで、魅力ある高校をどう作っていくか。そのキーワードの1つがコミュニティ・スクールです。高校のコミュニティ・スクールです。</p> <p>幼稚園、保育園から高校生までの子どもたちが、ふるさと伊万里の豊かさを経験しながら大人になっていく道筋をイメージしながら、我々は学校教育について考えなければならないところでございます。</p> <p>これで話を終わりたいと思います。ありがとうございました。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、次回の開催予定日等について事務局からお願いします。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>次回については、2月上旬に予定しております。</p> <p>次回で本協議会を最終回となり、答申をいただくこととなります。</p> <p>また、今後の学校規模の適正化を検討していくうえで、ぜひこの機会に委員のみなさまから学校区について、次回ご意見をいただければと思っておりますので、数年後協議会を再開する際の参考にさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。</p>
会長	<p>それでは閉会に移ります。</p> <p>閉会の言葉を井手副会長からお願いします。</p>
副会長	<p>それでは、これを持ちまして令和3年度第1回伊万里市立学校規模適正化協議会閉会します。ありがとうございました。</p>
	<p>《閉会》</p>